Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫 〜書・今・旬〜

主催　Ten・ten プロジェクト
後援　毎日新聞社

有賀瑚風　井口陽世　石井抱旦　磯崎式子　遠藤泉女　大石幸徑　小川移山　小椋紫仙
喜代吉博美　草津祐介　久保田伸子　斎藤白瑶　佐伯孝子　坂巻裕一　佐藤一墨子
柴田丹凰　白石弥生　杉本敦子　杉山勇人　鈴木邦子　大楽悠雪　高橋清堂　髙橋柳泉
高濱渉　竹澤順子　竹村美園　谷川ゆかり　仲手川幸沙　中西浩暘　橋本安希子　畑由紀
羽鳥戴白　濱﨑道子　原雲涯　平島正義　平蔵　堀内肇　堀廬山　真鍋智浩　松本丹芳
三宅華邦　森紅汀　森田圭瑶　八重柏冬雷　八木梢葉　山田しおり　山田翠香　横山千恵美
和田敬子　和田好恵

展覧会
陳列　有限会社美術表装岡忠
2024 年 4 月 23（火）〜29（月）日
11〜18（初日 13〜 最終日〜17）時
横浜赤レンガ倉庫 1 号館 2 階
神奈川県横浜市中区新港 1-1　231-0001　045-211-1515
ギャラリートーク　毎日 13〜14（初日 14〜15）時
ワークショップ　毎日（初日と 28 日（日）を除く）14〜15 時
シンポジウム「今の書、これからの書」 28 日（日）14〜15 時半
杉山勇人　鈴木邦子　畑由紀　濱﨑道子　八重柏冬雷（司会）

図録
2024 年 4 月 23 日発行　400 部
テクスト　栗本高行
表装・撮影　有限会社美術表装岡忠、東洋額装株式会社　ほか
印刷・製本　株式会社プリントパック
（表紙：上質紙　四六判 135 kg　本文：上質紙　四六判 90 kg）
設計　坂巻裕一　よく見ると今が見えてくる展覧会です

ちらし（A4 変形　コート紙　四六判 73 kg　7000 部）株式会社プリントパック
はがき（ポストカード　上質紙　四六判 180 kg　7000 部）株式会社プリントパック
封筒（角 2　カラーホワイト　100 g 平米　1500 部）株式会社グラフィック
目録（A4 変形　コート紙　四六判 73 kg　3000 部）株式会社プリントパック

事務局・代表・問い合わせ　石井抱旦
神奈川県茅ヶ崎市中海岸 2-10-13　253-0055　0467-86-2615

謎としての「前衛書」 栗本高行

「Ten・ten 2024 in 横浜赤レンガ倉庫 ～書・今・旬～」は、「前衛書」を中心とした合同展である。副題が端的に示しているように、全国各地で活動する書家と美術家による作品を通して、日本の書的表現の現在形を可視化しようとする意図が込められた企画だ。

「書」一般の展示の場ということであれば、さまざまな団体が運営する社中展や、公設のギャラリースペースを舞台に開催される大型公募展があり、書家がどのような表現を展開しているかが確認できる。一方、「Ten・ten」という枠組みがそれらと異なった視点を提供してきているのは、既存会派への所属の有無を問わず、さらには他の造形芸術の世界観を採用することもいとわない姿勢に立って、「書」の今日的な姿を模索する作家に対し出品を求め続けているからだ。そして、50 名に及ぶ今回の展示メンバーの多様な表現を取りまとめる共通分母として意識的に導入された術語こそが、冒頭に記した「前衛書」である。しかしそれは、語られる文脈に依存してそのつど姿を変えてきた捉えようのない概念を含んでいる。

この図録を手に取って下さった来場者に、「前衛書」の美術史的な定義を明示できないのは歯がゆい。だが、1960 年代に日本の美術界に出現した一群の新しい絵画・彫刻の傾向を言い表すために「反芸術」という呼称が案出されたり、現在の中国語圏において、伝統と矛盾した書の表現様式を呼び慣わす目的で「非書」という熟語が用いられたりするのと類似したタイプの言説が、国内の書壇にも長らく流通してきたのだと述べれば、理解していただく地ならしができるかもしれない。つまり「前衛書」とは、日本の書が歴史的に蓄積してきた通念を、何らかの方法で切断しようとする書き手たちの表現を暫定的に名付けた語に他ならない。だからこそ、作品の実態は千差万別なのである。

こうした事情を踏まえた上で、筆者が過去に展覧会や書籍で見聞することのできた「前衛書」に関わる記憶と知識を元にして、今回の「Ten・ten」の会場風景をあえて予測してみたい。

まず、「前衛」という形容が近代美術的なニュアンスを帯びていることに鑑み、文字を純然たる〈形〉として扱う態度が見られるはずである。さらに、そうして得られた〈形〉としての文字を、〈線〉にまで解体する操作を遂行する作家のいることが予想される。あるいは、〈線〉を〈点〉に還元したり、純粋な造形の裡に〈線〉と〈点〉を解消し尽くしたりしてしまう、抽象画のような「書」もあるだろう。

次いで、漂白された言語性を復原するために、あらためて〈言葉〉と向き合う作風が見られるかもしれない。しかしその場合、〈言葉〉を取り戻そうとしても、文学的な主題との関係が一旦途絶えてしまうことの影響は大きくなっていくに違いない。だからこそ、シュルレアリスムや宗教者のお筆先のごとくに、既存の言語システムでは説明不能な〈線〉の連なりを「前衛書」の様式として提示する作品が登場することも考えられる。

赤レンガ倉庫に足を踏み入れた方々は、上に並べたような傾向のいずれかに当てはまる作品が集結している、迫力に満ちた場面を目撃するのではないだろうか。願わくは、制作上の実践によって、筆者の想像の中にある展覧会像が鮮やかに覆され、机上の推論には当てはまらない「前衛書」が出現することを強く望む。2024 年 1 月（美術評論家）

古代のロマン　91×178 cm　画仙紙、墨、白抜き材
何千年の時を経て今も残る古代の遺跡や壁画。そこには、素晴らしい芸術と人間味あふれる深い空間がある。古代の人々の夢と希望そして愛に想いを馳せて制作を試みた。

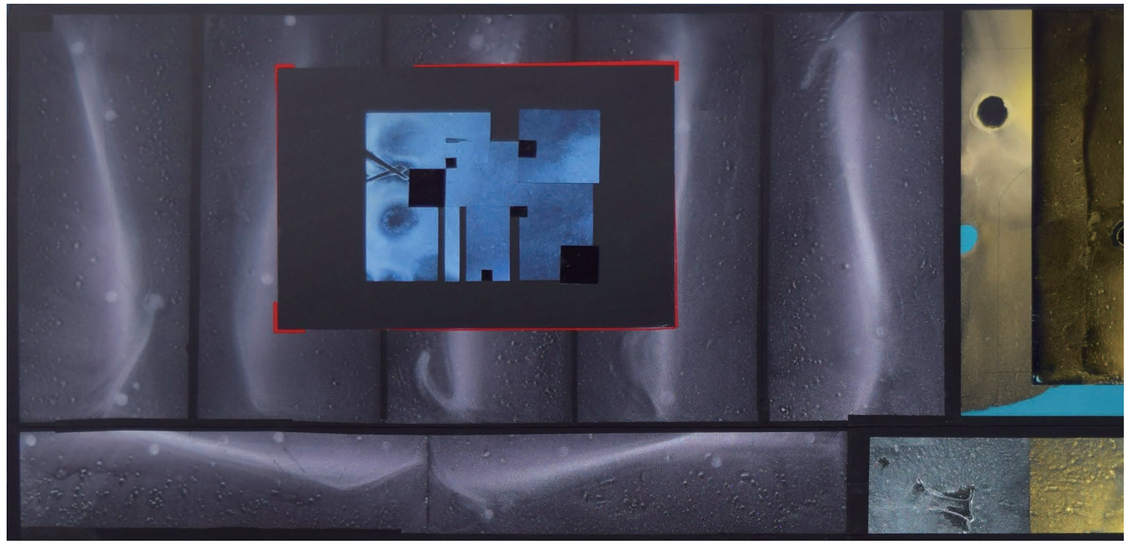
光と風の戯れ　91×60 cm ×2、91×91 cm　画仙紙、墨、白抜き材
光と風が織りなすお洒落な創造空間。海や山そして大地などの壮大な自然の中で、共に戯れる楽しそうな様子をイメージして制作した。

有賀瑚風　東京　産経国際書会、東洋書芸院　師＝梅木仙隆
eikosmile1221@gmail.com

2004～2009　東洋書芸院特選及び推薦受賞　東京都美術館
2012～ 布穀会展　有楽町朝日ギャラリー有楽町マリオン 11 階
2014　東洋書芸院瓦木賞受賞　東京都美術館
2015　書壇受賞に輝く作家展　セントラルミュージアム銀座
2016～2021　groupF 展
2016　Ten・ten 2016 - 線 - 55 のスタイル　横浜赤レンガ倉庫
2017～ 産経国際書展　東京都美術館
2017　書家による抽象表現展　銀座ギャルリー志門
　　Ten・ten 2017 - 線 - 37+1 のスタイル　3331 Arts Chiyoda
2018　Ten・ten 2018 - 書の実験室　3331 Arts Chiyoda
2019　産経国際書展ニッポン放送賞受賞　東京都美術館
2021　産経国際書展会友賞受賞　東京都美術館
2022～ 京都大徳寺黄梅院展（三人展）
2022　産経国際書展会友特別奨励賞受賞　東京都美術館
2023　書家による抽象表現展　銀座ギャルリー志門

day by day　120×120 cm ×2　和紙
谷川岳を眺めながら一日のスタート！
雲の流れは？ 偶然発見！ ペガサス？ パンダ？ 龍？ ファラオ王の顔？
一瞬の驚きや喜びの一コマが日毎に表れては消え、何て不思議な世界なの？
さぁ、貴方はどんな姿の雲に出会いますか？

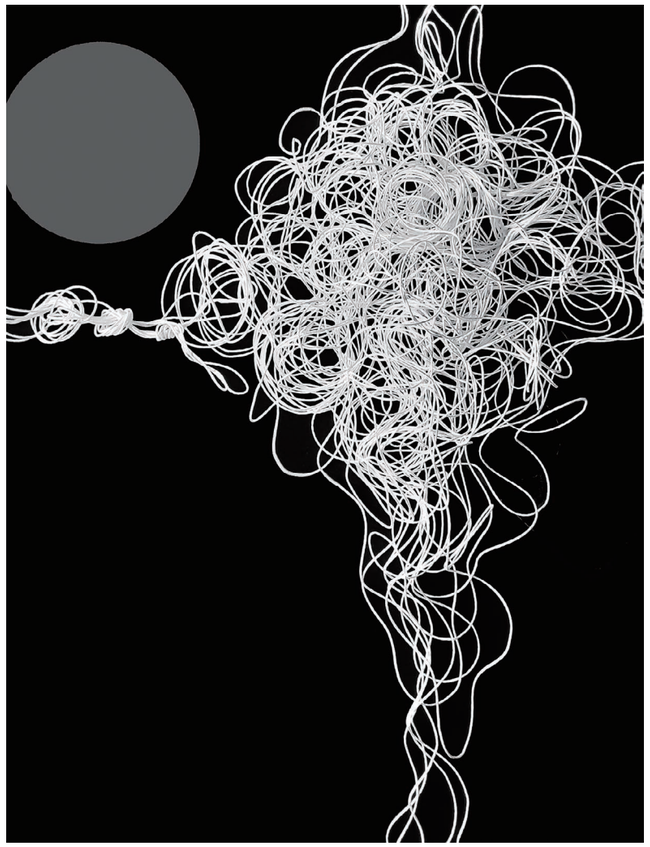
井口陽世　新潟



明日への手紙　180×220cm（部分）　塩ビ板、顔彩
そうだ　手紙を書こう。思い立ったが吉日だ。

石井抱旦　1947　神奈川　毎日書道会、奎星会、照心書道会　師＝水越茅村、宇野雪村

1974～ グループ展　東京銀座十字屋ギャラリー他５回
1990～ 海外展　ヨーロッパ巡回・アメリカ巡回・北京・ベルリン・ソウル等
　　個展　茅ヶ崎市文化会館・銀座ギャルリー志門等７回
2009　茅ヶ崎の書展　茅ヶ崎市美術館　井上有一・水越茅村・石井抱旦
　　「神奈川の歴史上の人物 100 人」の一人「藤間柳庵 生誕・終焉の地」碑文揮毫
2010　市立東海岸小学校校歌（岩谷時子 作詞・弾厚作 作曲）碑文揮毫
2013～ 日・米美術交流展　金沢・東京・アメリカ３回・パリ２回・ニューヨーク１回
2014　東アジア文化都市 2014　總持寺・横浜
2015　東アジア文化都市 2015　招待出品　光州市国立アジア文化殿堂・韓国
2017　第 15 回 NAU21 世紀美術連立展　奨励賞　新国立美術館
2018　同上第 16 回展 20 m^2 のブースで企画個展　新国立美術館
2021　かたちへの眼差し展　アートサロン毎日
2023　COSMOS の故郷は山形にありて石井抱旦獨展　山形県郷土館 文翔館



線のかたち　114×300 cm（部分）　紙紐、鉛筆、アルシュ紙、布
紙紐の巻きのうねりで形を作ると、どのような「書」を創造できるのでしょうか。
鉛筆ドローイング作家の挑戦です。

磯崎式子　神奈川　一陽会、日本美術家連盟

女子美術大学芸術学部芸術学科造形学専攻卒業
2014～2016　環太平洋展　カナダ国際文化交流協会賞　タワーホール船堀
2016　環太平洋展　中国黒竜江省美術館
2015～一陽展　特待賞・一陽賞・会員賞　国立新美術館
　　一陽会東京展　東京一陽賞・東京支部賞　他　東京都美術館
2015、2016　マリンバと絵画のコラボレーション　絵本塾ホール 東京文化会館
2015～「十」・の眼展　銀座ギャラリー暁
2019　「ドローイングとは何か」準大賞展　銀座ギャルリー志門
2020　個展　銀座ギャルリー志門
2023　「迷宮の視点」線を巡る鉛筆表現展　銀座ギャルリー志門
その他グループ展　多数

麒麟は何処　120×120 cm ×2、45×38 cm ×2（うち1）
アルシュ紙、ジエッソ、墨、ネオカラー金
上書きをしてゆき、層を重ねる試みをしてみます。「麒麟は何処」という思いが、めぐります。

遠藤泉女　1954　岐阜県各務原市那加琴が丘町 3-24　504-0006　毎日書道展、奎星会

書・インスタレーション
2002、'15、'19、'22、'24（予定）　個展　ギャラリーなうふ現代・岐阜
2003、'04、'06、'08、'10、'12、'14、'16、'18　個展　ガレリアフィナルテ・名古屋
2005、'16 個展 オリエアートギャラリー・東京
2014　個展　各務原市企画、中山道鵜沼宿脇本陣アート展ほか
以下グループ展、二人展（京都／福井）、ワークショップなど多数
1998～'21　CROSSING　名古屋・岐阜、2012　CROSSING and Friends ドイツ
2007～'24　それぞれの空間表現展　岐阜県美術館
2009、'11　Kulturremisen International Workshop　ブランデ・デンマーク
2010　Japanischer Blick　日本のまなざし　ジークブルク・ドイツ
2012～'23　Ten・ten　赤レンガ倉庫・札幌コンチネンタル G、3331 アーツ千代田
2019　rendez-vous　バーゼル・ペータースホーフギャラリー・スイス

クライシス　121×273 cm　画仙紙、ネオカラー、墨液　危機的状況から生まれたもの

大石幸徑　1986　静岡　奎星会　師＝榛葉壽鶴

2009　第 49 回静岡県芸術祭展　特選
2010　第 62 回毎日書道展　U23 奨励賞
2014　第 63 回奎星展　奎星賞
2018　第 70 回毎日書道展　秀作賞
2019　第 59 回静岡県芸術祭展　準奨励賞
2019　第 68 回奎星展　毎日新聞社賞
2020　第 60 回静岡県芸術祭展　奨励賞
2023　第 63 回静岡県芸術祭展　奨励賞

TO TOUCH 1　330×100 cm
リペル液、リペルペーパー
タイトルの TO TOUCH は「 触る 」という意味です。私たちが意識無意識の中で触れているものは無限にあります。宇宙に触れる、星に触れる、月に触れる、太陽に触れる、時間に触れる、空気に触れる、一粒の砂の中の悠久に触れる‥‥　過去にどう触れてきたのか、今という時代にどう触れているのか、未来にどう触れたいのか‥‥。

小川移山　1946　埼玉　師＝鈴木翠軒
gukouizan9@gmail.com

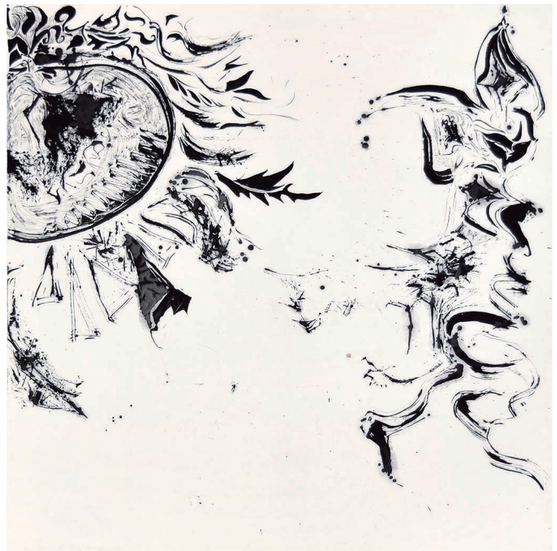
1968　書塾設立
1976　鈴木翠軒に私淑
1987　万紅展翠軒最高賞・東日本書展準大賞
1988　万紅展千紫会賞　後　無所属

個展＝所沢市民ギャラリー、千雅堂、d-lab gallery、ORIEArt Gallery、画廊宮坂、DieDryFalken、GalleryArtPoint、いりや画廊、カレル城、ホテルヤルタプラハ、プラハタウンホールタワー、プラハ Miyabi‥‥等
グループ展＝NAU 展、OneDrop 展、墨三人、書家による抽象表現展、墨展、モノクローム展、横浜開港アンデパンダン展、Ten・ten、初心展、花心展、小川移山と仲間たち展、連画、RENGA、プラハ日本文化展、ターボル日本文化展、PRAHA Bonsai 2006、プラハ Miyabi 食の書展‥‥等
受注＝ペニンシュラ東京、椿山荘、伊東小涌園、西鉄ソラリア京都ホテル、マリオネットホテル北海道‥‥等
交流＝1997～ チェコ共和国、 2000 ネパール王国、2023～ U.K、2005～ 高齢者福祉施設書道教室

蔟　120×120 cm　墨、ネオカラー、水彩絵の具、布紙
もう 70。人生ひと区切りとして、何か出来るかと、思っていたところ
「～書・今・旬～」のお誘いを頂いた。自分の「今まで～今」を表現してみようと初参加。
作品づくりに四苦八苦しながら今の自分を表現してみた。
これからの人生も「今」を探しながら日々楽しんで行きたいと思う。

小椋紫仙　1953　東京都三鷹市中原 1-21-19　181-0005
毎日書道会会員、奎星会同人、紫萼社主宰　師＝稲村雲洞

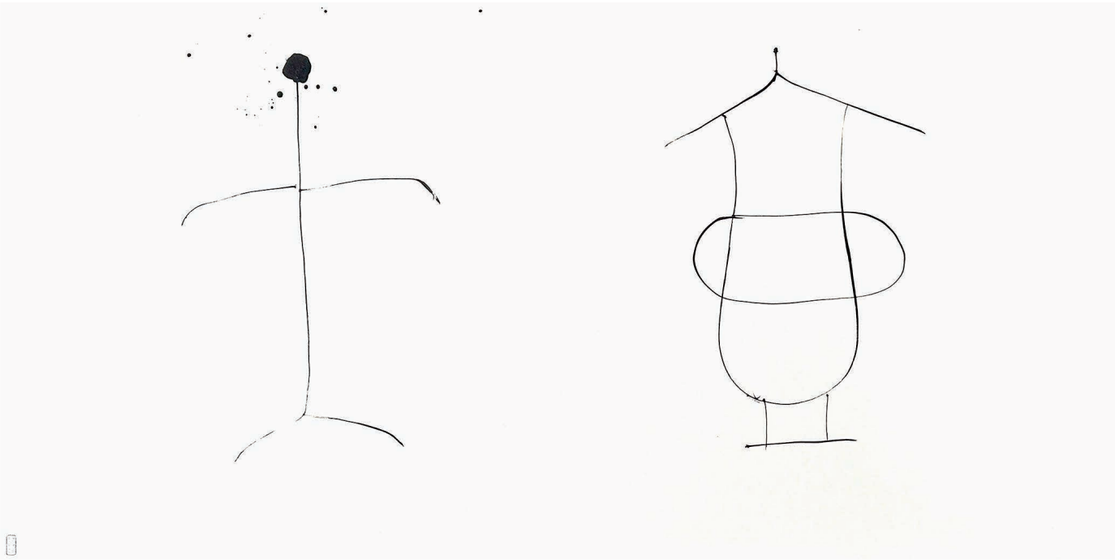
2020～2023　アジア環太平洋展　韓国
2023　奎星ウィーン展



再生　118×118 cm ×2　画仙紙、ネオカラー、染料
太陽は希望を、打ち捨てられた冠は象徴を、そして開放に向かう対の物語。

喜代吉博美　1959　島根　奎星会　師＝喜代吉鐵牛　0855-22-5502

2013　横浜赤レンガ倉庫 2013－Sho is it!－
2016　Ten・ten 2016 IN 横浜赤レンガ倉庫
2017　奎星展上田桑鳩記念賞



壺天　33.8×69.5cm　銀泥箋、墨

草津祐介　1981　東京都葛飾区四つ木 4-4-12 405 号　124-0011　東京学芸大学
ykusatsu@u-gakugei.ac.jp

2023　Ten・ten 2023 in 横浜赤レンガ倉庫　線のゆくへ II　横浜赤レンガ倉庫
中、日、韓国際書法作品展　中国北京・798 情修美術館
中国「古漢字」書法作品国際展　安徽芸術学院美術館
傳承・流變　中日韓書法名家作品展　天津美術館

孟夏 no 宴　72.5×60.5cm
厚紙、墨、クラッキングプライマー、ガラスビーズメディウム
孟夏旬は平安時代の陰暦 4 月に行われた旬儀。
宴で交わされた人々の「声」に思いをはせ「今」の声に向き合う。

久保田伸子　1976　群馬　高真会　師＝真下京子　ima.sac.8805@gmail.com

2014　高真会展「ころがる金文」 YOUHALL
2015　現代の書と花「羊太夫伝説」 ライフアップスクエアアイズ
2016　現代の書と花「みザルいわザルきかザル」 ライフアップスクエアアイズ
2017　現代の書と花「火の鳥」 ライフアップスクエアアイズ
2018　現代の書と花「ここほれワンワン－アートの鉱脈を探る」 同上
2019　現代の書と花「猪突猛進」 ライフアップスクエアアイズ
2020、2023　高真会異人館展　ギャラリー異人館
毎日書道展、書道芸術院展

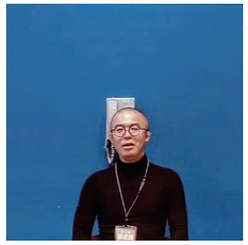
響　70×55cm ×4　加工紙、たこ糸刷毛、ネオカラー
気ままな線と不定形な円のコラボです。

斎藤白瑶　1943　神奈川　奎星会　師＝石井抱旦　saito.masako@gmail.com

MOM　120×90cm　画仙紙、ネオカラー、墨
瞬時に現れる点・線・形・色から幽玄の世界が浮かんでくる。
時間と空間のせめぎあいの中で、作品として完結させたいと願う。

佐伯孝子　1954　兵庫県神戸市中央区北野町 1-2-7-508　650-0002
奎星会、毎日書道会、飛雲会、煌彩会　師＝加藤博暘　078-222-0074

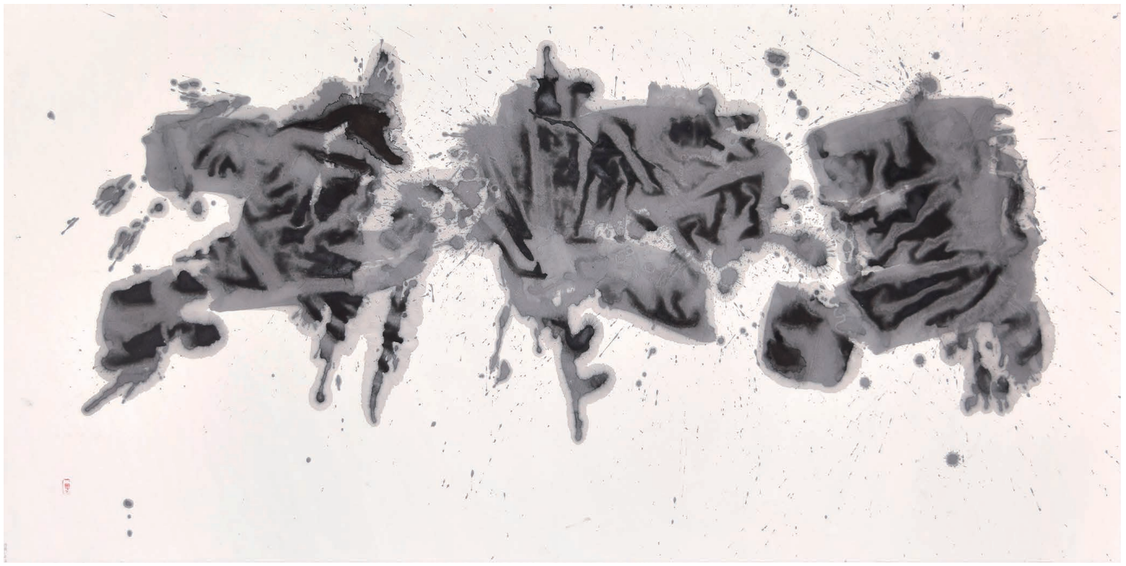
2003　奎星展上田桑鳩記念賞
2004、2009　煌彩会書展　神戸
2006　毎日書道展会員賞
2009　第２回日中女流書道家代表作品展　北京
2009、2011、2013、2015、2020、2022　現代の書新春展セントラル 100 人展
2009、2011、2014、2017、2019、2022、2023　現代女流 100 人展
2013　TOKYO－書 2013 出品　東京都美術館
2014　煌彩会選抜前衛書展　兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー
2020　佐伯孝子前衛書展 PASSION　兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー
2021　毎日書道顕彰・芸術部門



いま　176.1 cm　坂巻裕一　執刀＝濱崎七海

坂巻裕一（顔写真＝八重柏冬雷）　1978　茨城　奎星会　師＝田村空谷

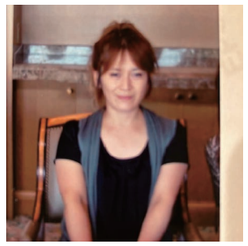
2000　書道展－美術大学で書をするということについて　多摩美術大学・東京
2019　「書と非書」際（きわ）展　JARFO 京・文博・京都
2020　What’s SHODO?　MARUEIDO JAPAN・東京
2021　書をアートへ　東京画廊＋BTAP・東京
　　かたちへの眼差し　アートサロン毎日・東京



何処（いずこ）へ III　90×180 cm　油煙墨、青墨、ゼラチン、画仙紙
昨年後半より「何処へ」のタイトルで作品に取り組んでいる。混沌とした日常の中から、自分の進むべき方向を見つけられたらという思いを込めて、制作にあたっている。

佐藤一墨子　1948　群馬県館林市本町 3-1-7 702　374-0024
群馬県書道展覧会審査員、上毛書道三十人展相談役、国際書画連盟理事、墨流社会長、三華書舎主宰　師＝関口虚想

Sho is it！（2013）より Ten・ten プロジェクト参加



凛、凛Ⅰ、凛Ⅱ　64×96cm ×3（うち1）　和紙、ネオカラー、アクリル絵具、箔
イメージして指先からそっと、あるいはたたきつけて始まる
重なりあった線たちがきらっと輝くところが見たくて。

柴田丹凰　神奈川

十二支　90×45cm ×12　プラダン、ペンキ、スプレー
右上＝子、右下＝丑と右から上下に十二支の順番になっています

白石弥生　1971　北海道帯広市清流東 3-13-1　080-0871　奎星会
師＝八重柏冬雷、安江翠泉　090-2073-3506

1997　奎星会入会　毎日新聞社賞　奎星賞
1997～毎日書道展出品　佳作賞
2012　北の構図展　帯広市
2015　帯広市民劇場新人賞
2016　大樹町文化賞
2021、2023～　Ten・ten 出品
2022　北海道書道展　準大賞
2022　毎日書道展　佳作

想望　139×70cm ×3　キャンバス、墨、透明ニス
美とは、表現するとは錯乱・誤作動・混沌の中で探し求める旅

杉本敦子　1947　青森県八戸市吹上一丁目 1-19　031-0003　毎日書道展、書道芸術院
師＝名久井裕三　090-2978-7712

2000　書の前衛四人展　八戸市美術館
2006　現代書を考える三人展　八戸市美術館
2012　杉本敦子色紙展～書遊び～　八戸ポータルミユージアムはっち 以降毎年開催
2013　横浜赤レンガ倉庫 2013－Sho is it！　横浜赤レンガ倉庫
2017　Ten・ten 2017 in 3331 アーツ千代田
2018　書とダンスのディプティク＋杉本敦子墨象展　八戸ポータルミユージアムはっち
　　Ten・ten 2018 in 3331 ARTS CYD 書の実験室　アーツ千代田
2019　書とダンスのディプティク 2019「シヒアカリ」　八戸ポータルミユージアムはっち
2021　Ten・ten 2021 in 横浜赤レンガ倉庫　筆と腕　横浜赤レンガ倉庫
2024　第 13 回 杉本敦子色紙展　創書　八戸ポータルミユージアムはっち

受忍／利他　36×70cm ×2　墨、紙、ボンド
前衛性を秘匿（かく）していますので、見つけていただければ幸いです。

杉山勇人　1979　神奈川　鎌倉女子大学短期大学部准教授

群馬県高崎市生まれ
博士（教育学）
専門は書写書道教育学・文字文化論
Ten・ten のほか、個展・グループ展等多数

混迷から未来へ　70×270cm　和紙
混沌とした今の時代を生きる私達、あなたはあがく？　進む？　チャレンジする？
つかむ？　委ねる？　共創する？　そしてどこへ？

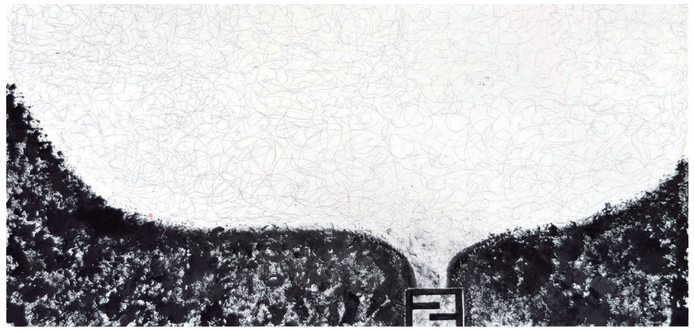
鈴木邦子　東京都町田市南つくし野 4-18-10　194-0002　奎星会、毎日書道会
師＝宇野雪村　042-796-9645

1994　毎日書道展グランプリ受賞
2003　毎日現代の書「新春展」
2004　日中女流書道代表作家展　中国・北京
2005　現代書トウール展　仏・トウール市
2007　フランスツリー展　仏・ツリーライアール
2013　現代日本の書代表作家パリ展　ギメ美術館　仏・パリ
2016　墨アート・空間演出展
他

古代への憧憬：殷商の日　95×190cm　和紙、アクリル絵の具、他
殷（商）の王は、太陽〈日〉の末と考えられていた。
また、その日は10個あり、そのそれぞれに十干名（甲、乙、丙‥‥）がついていたという。
最後の王である討王は帝辛である。殷代約500年間を日で表現した。

大楽悠雪　1961　広島県福山市多治米町 3-28-1　720-0824
奎星会理事・同人、毎日書道展審査会員、一華会会長、月刊書道誌書玄社会長・主幹、
日本書道文化協会顧問　他　師＝大楽華雪
090-7774-9308、shoyan@oboe.ocn.ne.jp、インスタグラム dyuusetsu

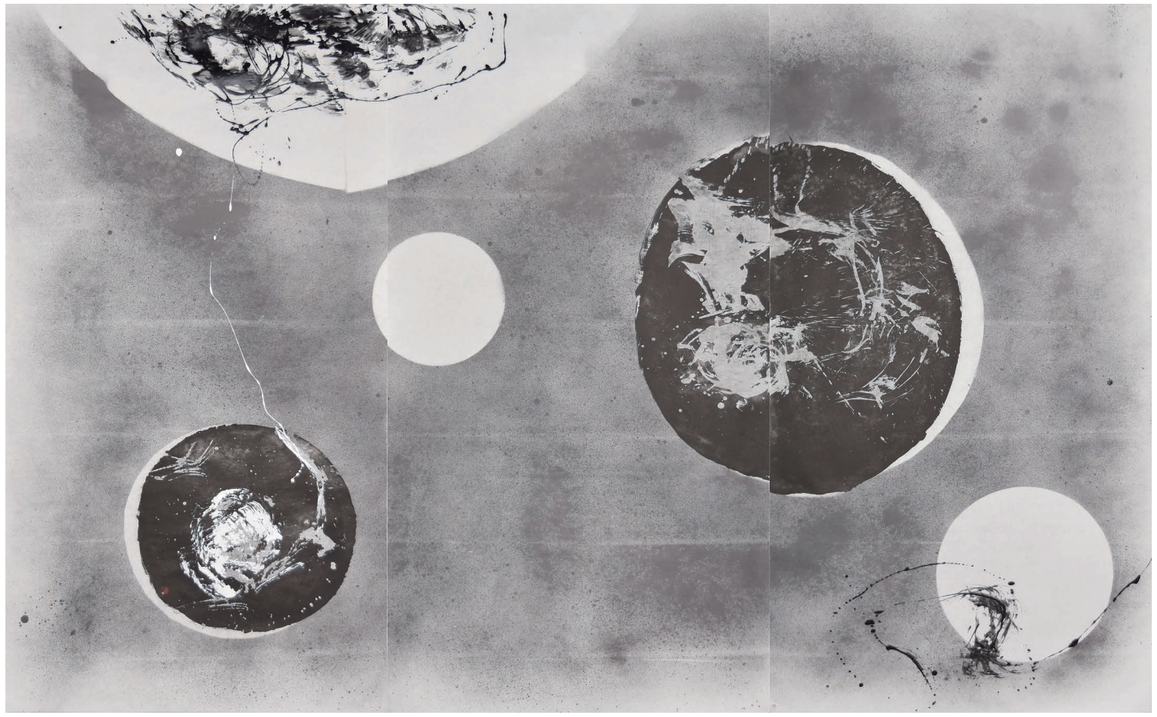
2003　福山市美術展覧会招待作家
2007　毎日書道展毎日賞
2008　毎日書道展会員
2014　奎星展無鑑査特別賞
2015　奎星会同人
2016　毎日書道展会員賞　漢字部
2017　毎日書道展審査会員



呼友（友を呼ぶ） 85×180cm　和紙、ネオカラー、白抜き剤、他
白黒を反転させた前衛作品で、世界融和への願いをこめて制作した作品です。
世界融和を筆に託して、表現してみました。
幻（まぼろし）　85×180cm　和紙、ネオカラー、ボールペン、他
ボールペンを主に仕上げた作品です。

高橋清堂　1949　神奈川県厚木市戸室5-20-1　243-0031　毎日書道会、奎星会
師＝渋谷竹径　046-224-3704　sp684u49@rhythm.ocn.ne.jp

2002～2023　たのしい書道・（テン）主宰（8回）　厚木市民ギャラリー
2008　奎星会俊英作家展　上野の森美術館
2011　毎日書道会会友
2012　第42回臨古展準大賞　神奈川県民ギャラリー
2013　第63回奎星展前衛書奎星賞　東京都美術館
2016　「童謡・唱歌をかく」出版
2018　Ten・ten 2018 in 3331アーツ千代田
2023　Ten・ten 2023 in 横浜赤レンガ倉庫



旬発力　180×291cm　画仙紙、白抜き剤、墨液、ボンド墨、白ポスカ
旬の素材には、体を元気にしてくれる力がある。
私も旬という素材を使って旬が発する力を表現できたら。

髙橋柳泉　1975　北海道中川郡幕別町緑町6-2　089-0614　奎星会
師＝長沼透石、八重柏冬雷

2010　奎星展奎星賞
2017　北の構図展出品　帯広市民ギャラリー
2018　毎日書道展前衛書部秀作賞
　　Ten・ten 2018書の実験室　3331アーツ千代田
2019　毎日書道展前衛書部秀作賞
2021　Ten・ten 2021 in 横浜赤レンガ倉庫　筆と腕
2022　中野北溟記念　北の書みらい賞奨励賞

WOW WOW FAIRY　105.5×138.5cm　和紙、ボンド墨
「wow wow」と書いている。そこから体と脚が生えてきて妖精が現れた。
不登校だった中学時代、唯一の救いだったのがモーニング娘。だった。
楽曲のなかで、「wow wow」という一説にずっと何の意味があるのかと考えていたが
やっと最近わかった。それは、恋愛成就させることができる魔法の合言葉だったのだと。

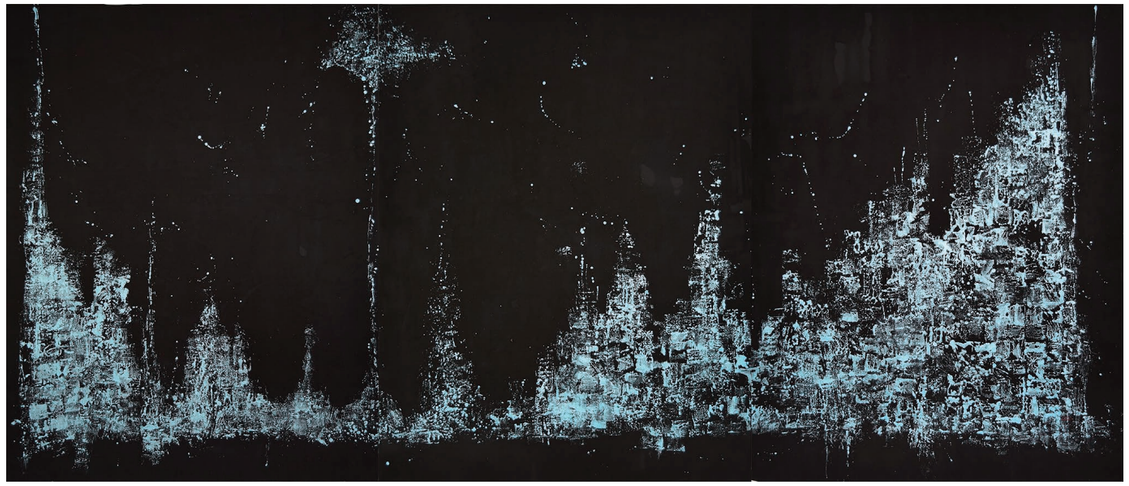
高濱渉　北海道　090-2812-9047

1986　旭川市生まれ　現在は帯広市在住
1995　習字の授業で挫折し学校を欠席
2002　書道部に入部
2003　顧問に腹が立って椅子に八つ当たりし指を骨折
2011　表彰式のため上京し震災に遭遇、原発問題をきっかけに書道界に不満が募る
2016　所属していた書道会を退会
2018～ ART SHODO のグループ展に参加

風を捉えて III　137.5×69.5cm
台湾紙、墨
墨線から滲みでるかたちは時間の流
れによって刻々と変化し新しい空間
をつくり思いもよらない作品となる。
これまでよりも前に進んだ表現がで
きただろうか、自問自答している。

竹澤順子　1961　福井　奎星会
師＝山本大廣　090-6272-8300、
takezawa-kj@nifty.com

1978　えとの現代書展　現在まで毎回出品
1990　個展　NTT ホールギャラリー・福井
1999　第 51 回毎日書道展　52、56、57、60 回展で秀作賞 5 回受賞し会員となる
2007　’07 奎星俊英作家展　上野の森美術館・東京
2009　竹澤順子・吉田直樹二人展　ハーモニーホール福井・福井
2012　奎星 書の流れ展 ‘創立から今への歩み II’　東京セントラル美術館・東京
2014　第 63 回奎星展 上田桑鳩記念賞受賞　東京都美術館
2015　東アジア文化都市 2015「日中韓書道交流展」招待出品
　　国立アジア文化殿堂・韓国光州市
2016　Ten・ten 2016 in 横浜赤レンガ倉庫（以後毎回出品）
2019　竹澤順子×鄭龍超 2 人展　アトリエ西宮・兵庫県西宮
2021　「かたちへの眼差し」展　アートサロン毎日・東京、竹橋
2021、2022　「書と非書の際」展　JARFO 京都文化博物館、京都王藝際美術館
2023、2024　「書と非書の際」展　JARFO ART SQUARE、JARFO 京都文化博物館



静寂な光の幻想　133×312cm　画仙紙、墨液、青煌墨汁、銀墨汁、燻墨汁、厚紙
暗闇に浮かび上がる工場夜景。
青・白・銀に輝く、光のイルミネーションの美しさと儚さを表現したかった。

竹村美園　1967　静岡　奎星会、毎日書道会　師＝櫻井琴風、榛葉壽鶴

1999　毎日書道展前衛書部秀作賞
2000　奎星会新人100人展　上野の森美術館・東京
　　毎日書道展前衛書部毎日賞
2004　奎星展A部奎星賞、静岡県芸術祭前衛書奨励賞
2010　毎日書道展前衛書部秀作賞
2011　奎星展A部無鑑査特別賞、毎日書道展前衛書部秀作賞
2012　奎星　書の流れ展　セントラル銀座・東京
2013　Ten・ten 2013、2019、2021、2023 横浜赤レンガ倉庫・神奈川
2018　静岡県芸術祭展委嘱作家
2021　かたちへの眼差し　アートサロン毎日・東京
2022　奎星展前衛書部同人特別賞

all right　180×96cm
中国紙、墨
古代のプリミティブな美にふれるとイマジネーションが生まれる。文字の萌芽に思いを馳せる。
心の深奥に潜む記憶や経験を線に託し、オルタナティブな美を探し求めたい。

谷川ゆかり　1963　兵庫　毎日書道会、奎星会、飛雲会、兵庫県書作家協会
師＝江草幽研　osadayukarikensaki@yahoo.co.jp

1993、2003　個展　南京町ギャラリー蝶屋・神戸
2007　兵庫県芸術文化協会創立40周年記念新進作家展　兵庫県民会館・神戸
2008～2020　壘土舎展　大阪産業創造館・大阪
2013　神戸ビエンナーレ2013　メリケンパーク・神戸
2013～2023　Ten・ten　横浜、札幌、鎌倉、東京
2018　書家による抽象表現展　ギャルリー志門・銀座
　　個展　ふるもと珈琲店・神戸
2019　画・陶・書コラボ展　南京町ギャラリー蝶屋・神戸
2021　かたちへの眼差し展　アートサロン毎日・東京
2019～2024　書と非書の際展　京都文博、京都王藝際美術館他、京都、伊賀市など
2024　個展　ギャラリールネッサンス・スクエア・姫路

乱立する線　82×120cm　洋紙、ネオカラー　形になる前の乱立する線が宙に吠えている。

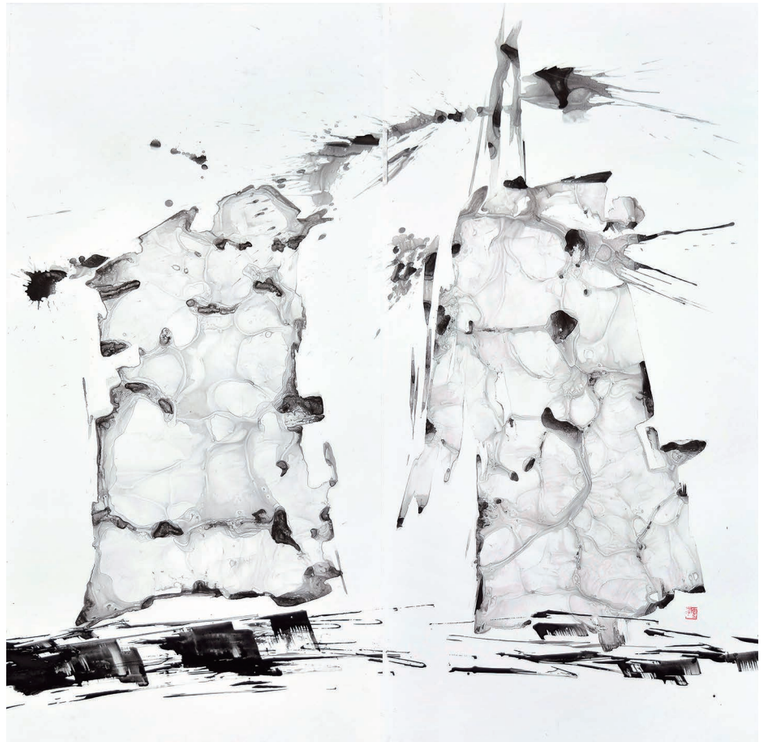
仲手川幸沙　神奈川　奎星会　師＝石井抱旦　080-5434-1921

2008～ 奎星展　無鑑査特別賞・奎星賞、他
2013～2018　毎日書道展入選５回

「何」・「必」　90×90cm ×2　画仙紙、墨、顔彩、ポスターカラー、膠
書く営為は、常に書的空間を意識した身体性表現であり、そこに生起される点と線は、互いに呼応する美的交響である。それらは、自由な変化と統一の止揚へのあくなき挑戦である。

中西浩暘　1948　兵庫県神戸市長田区腕塚町 6-1-31-1303　653-0036
奎星会・毎日書道会・飛雲会　師＝上松杜暘　078-642-5535

1968　前衛書に取組む
1997　奎星展　上田桑鳩記念賞受賞
1998　中西浩暘展　神戸三ノ宮・ダイヤモンドギャラリー
1999　毎日書道展　会員賞受賞
2000　毎日書道展関西代表作家ロサンゼルス展出品・訪米
2008　TEN・ten　東京・銀座洋協ホール　初回以降、毎年出品
2014　現代日本の書代表作家パリ展出品・渡仏
2017　第 32 回毎日現代書関西代表作家展・実行委員長
2020　～書の抽象世界～中西浩暘展　神戸三ノ宮・フローラアーティストギャラリー
　　日本の書 200 人選展出品　国立新美術館
2023　奎星会ウィーン展出品　ウェルト・ミュージアム・ウィーン



line up　180×180cm　合成紙、墨
文字を媒体として自由に表現し、新しい書美を求めていきたい。

橋本安希子　1966　大阪　奎星会、飛雲会　師＝江草幽研
akikohashimoto_m_s@yahoo.co.jp

1991　たんぽぽ5人のSHO展　南京町ギャラリー蝶屋・神戸
2018　船江千恵子・橋本安希子SHO展　南京町ギャラリー蝶屋・神戸
　　Ten・ten　3331アーツ千代田・東京
2021　Ten・ten　横浜赤レンガ倉庫・横浜
2022　個展　アートスペース余花庵・京都
2023　京都国際文化交流展　京都市国際交流会館・京都
　　奎星ウィーン展　ウェルト・ミュージアム・ウィーン・オーストリア

M.I氏へのオマージュ　100×200cm　鳥の子、粉炭、水性塗料
「わが胸の底のここには、思い沈んでいることば達がいる。
誰かが手をのべてそれをすくいあげてくれないか」
そうつづったM.I氏の思いが私の胸にせまります。

畑由紀　1968　福井　奎星会無鑑査会員、現代書グループ未在社
師＝山本大廣　snowfield1116@gmail.com

BOXART 箱の中の宇宙シリーズ・流木編①　Trabeler Wood「森の記憶」
58×36 cm　流木、墨、炭
長い年月を経たモノには精霊が宿ると言われます。海辺にたどり着いた森の漂着物・流木。
それらの個性ある流木に命を吹き込み、古箱の中にオブジェや造形文字として閉じ込め、
甦らせました。

羽鳥戴白　1948　東京都北区東田端 1-6-11　114-0013　080-4138-2202

群馬県渋川市出身
グラフィックデザイナー、アートディレクターを経て墨象家・立体コラージュ作家
2009～2015　CACA 現代アート作家協会に所属
2016　羽鳥戴白展（初個展）　銀座スペース・オッティ
　　羽鳥戴白展　日本橋小津ギャラリー
2017　Only One のスマホケース展（企画）　日本橋アートモール
　　羽鳥戴白展　門前仲町 Chaabee
2019　平井秀耕・羽鳥戴白／二人展　日本橋小津ギャラリー
2021　Ten・ten 2021 in 横浜赤レンガ倉庫　出品
2017～2023　書家による抽象表現展（企画）　銀座ギャルリー志門　計 7 回開催
その他グループ展に多数参加

不死鳥　200×360cm　布制ビニール、墨、ボンド墨
大学の書道科を卒業後、特定の師や団体に属することなく独自で活動を続け既に五十年。
道草や遠廻りのでこぼこ道をトボトボと歩んできた。今後も今を生きるを念願に、
長生きが勝負と言われる書の道を、生涯現役で全うしたいものである。

濱﨑道子　1942　神奈川　墨の美術館長　hm02hamasaki@gmail.com

東京学芸大学書道科卒業、同大学専攻科修了
国内：1986～　銀座、六本木、横浜、京都各地で個展
海外：1990～　アメリカ、パリ、ロンドン、スペイン、ポーランド、トルコ、韓国、
イタリア、シンガポール、メキシコ、ウズベキスタン、キルギス各地で個展と文化交流
2018　濱﨑道子と仲間たち展　横浜市民ギャラリーあざみ野
2019　呪文を紡ぐ・濱﨑道子展　六本木ストライプスペース
2021　濱﨑道子書展－龍虎竹林を翔ける－　横浜・都築民家園
2023　書濱﨑道子　不死鳥　六本木ストライプハウス
他に、NAU 展、書家による抽象表現展、Ten・ten 他に参加

〈音〉　55×80cm　絵の具（青）、ケント紙
線の魅力をいかにして表現していくかが、毎回のテーマ。

原雲涯　1947　長崎県長崎市稲田町 1-27　850-0907
毎日書道展審査会員、奎星会常任理事、飛龍会々長、長崎県書道展・県展審査員
師＝藤原清洞　095-828-0912

展　68×171cm　アクリルカラー、化粧板
自己のリベラル性を探りつつ、新しい裡なる細胞分裂の始動を密かに望んでいる。

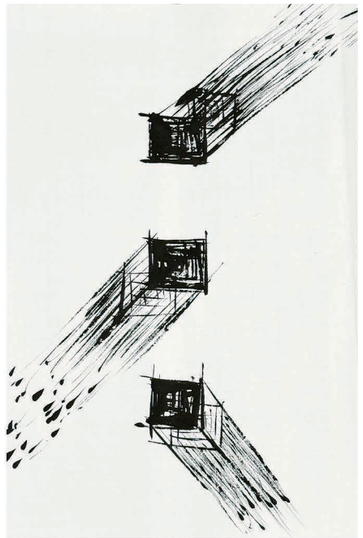
平島正義　1950　青森県八戸市湊町大沢 13-5　031-0812　師＝名久井裕三
090-3644-5175

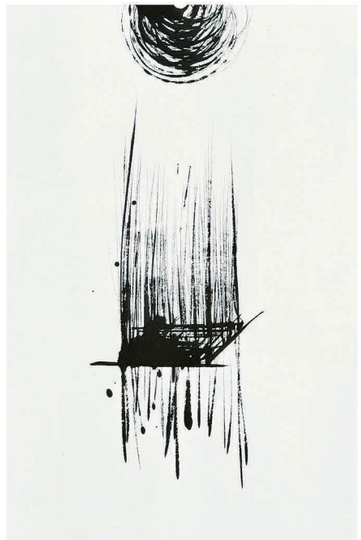
2000　書の前衛四人展－21 世紀の書を目指して－　八戸市美術館
2006　現代書を考える三人展　八戸市美術館
2012　Ten・ten　出品　横浜レンガ倉庫展他　計 8 回出品

170×42.5cm ×4　墨
余白があれば墨は生き、成長して行く。
構想段階では白い 4 本の軸であったが、これから恐らく10 本の軸となるだろう。

平蔵　1983　東京　文字区　hirakurakazunori@gmail.com

個展 3 回、グループ展多数





動く　45×30cm ×6（うち 4）　画仙紙、墨　今、動く時

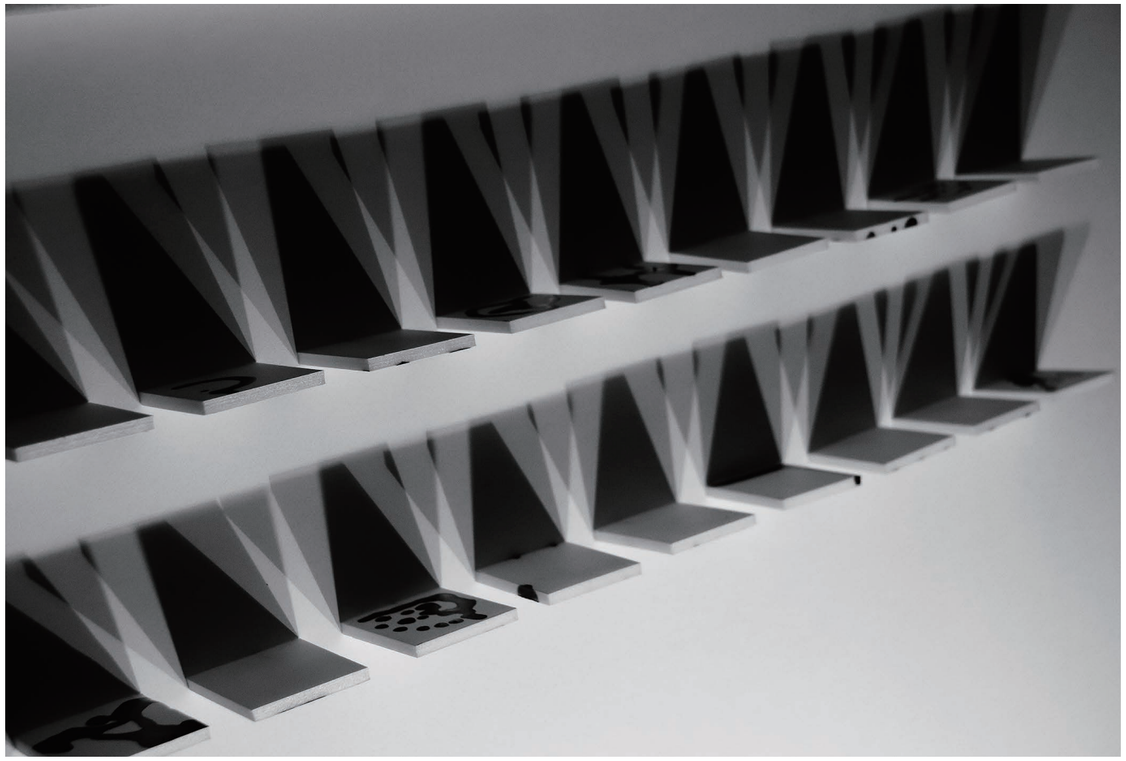
堀内肇　東京　師＝田村空谷　plus.g@gol.com

2000　個展「3.14 YO-YO EXHIBITION」（東京・青山）
2004　「わたしにとっての日本展 - 根」（東京・銀座）
　　「日韓現代美術交流 2004」展（東京・大崎）
2005　EXPO Romanesque!_ASIAN（Paris）
2011　個展「グラフィカル書 _26 のカタチ」（東京・青山）
2017　個展「en.」～グラフィカル書 - CROSS する領域～（東京・新宿）
2021　「かたちへの眼差し」アートサロン毎日（東京）
2023　「Ten・ten」横浜赤レンガ倉庫（神奈川・横浜）

YOKU（翼） 135×35、70×70、35×135 cm　画仙紙、墨液　空も飛べるはず

堀廬山　1961　長崎県大村市宮小路 3-1339　856-0807　奎星会　師＝野崎嶽南
090-5287-7197

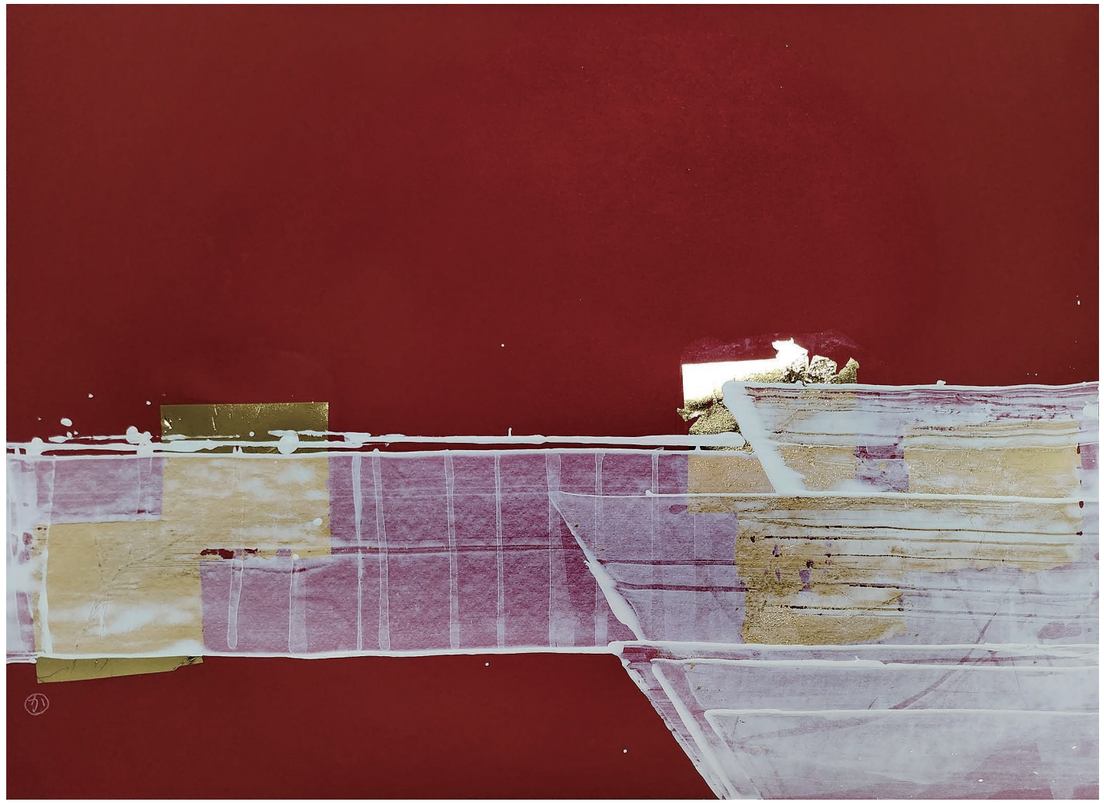
1993　毎日書道展秀作賞（漢 II）
1996　毎日書道展秀作賞（漢 II）、奎星展奎星賞（前衛）
1999　毎日書道展秀作賞（漢 II）
2005　毎日書道展毎日賞（前衛書）
2013　奎星展上松杜暘記念賞（前衛）
2021　奎星展同人特別賞（前衛）



close your eyes. open your heart.　70×90 cm　アクリル
めをとじて‥‥みてください

真鍋智浩　1970　島根　奎星会、五風会　師＝福田石峰、杖田董園

2012　横浜赤レンガ倉庫 40
2016　TOKYO 書 2016
2018　Ten・ten 2018 in 3331 ARTS CYD
2023　Ten・ten 2023 in 横浜赤レンガ倉庫　線のゆくへ part II



煌１　40×55 cm　色画用紙、金箔、銀箔、ジェッソ
「金箔・銀箔を使い雅な世界に遊びたい」が始まりです。

松本丹芳　1943　神奈川県平塚市御殿３-23-39　254-0061　照心書道会
師＝塩川丹山、松川昌弘　0463-33-0200、090-2135-5134、
kazuko-wako.1208@docomo.ne.jp、kazuko173@outlook.jp

毎日書道展、奎星展、東京書作展に出品

龍　121×242 cm　メタリック
７回目を迎えた辰年（龍）８回に向って go という気持ちを込めて楽しく書けました。

三宅華邦　1946　広島　奎星会（一華会）　師＝大楽華雪　090-4805-9925

作家歴 46 年

喜怒哀楽　90×380 cm　和紙、ネオカラー
人生を歩んできた道
またこれから進んでいく喜怒哀楽を作品として表現してみたいと思いました。
それがいかにも美しい　そして激しい　道であったと、様々に思いを残していきたい。

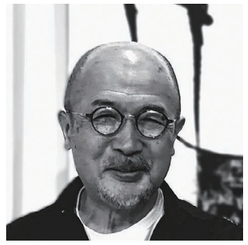
森紅汀　1942　香川県高松市木太町 1536-14　760-0080

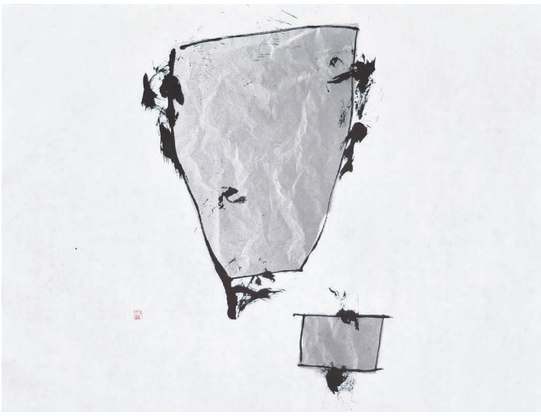
1975 年故小森秀雲に師事、以来香川書道会に入会現在に至ル。
自身が好んだ書　前衛書で作品作りに専念。
毎日書道展、奎星展、四国書道展、県展、墨華書道展等
毎年 6 回で、作品出品して来ました。

原点回帰　和紙、墨、枯れ紫陽花着色
紫陽花の花びらを「供花（くげ）」になぞらえ　散花とした。
いけばなの原点、その因子となるもの

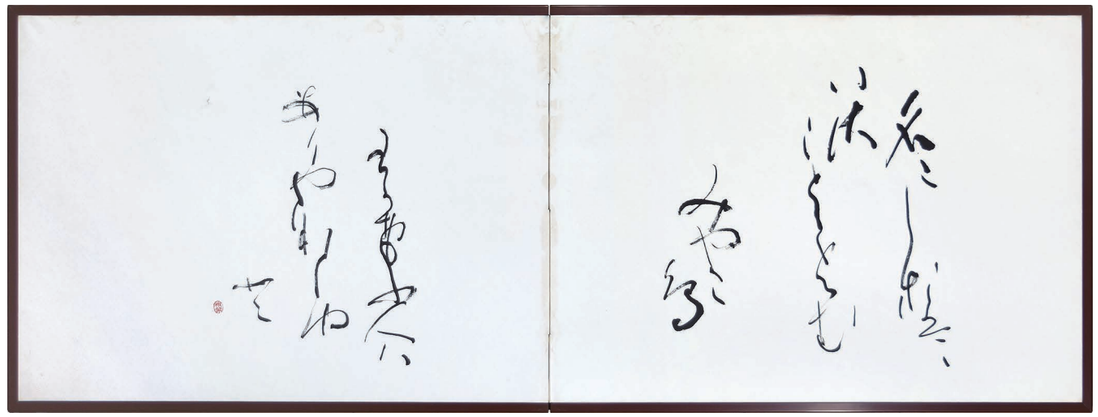
森田圭瑶　1940　神奈川県藤沢市鵠沼桜が岡 1-11-12　251-0027　照心書道会、奎星会
師＝田中一瑶、石井抱旦　090-8852-3587

2008　奎星展　奎星賞、奎星会　入会
2012　奎星展　特選
2014　奎星展　特選
2015　奎星展　無鑑査





たゆたう・うららか　90×120 cm ×2　中国紙、油煙墨
あてもなくゆらゆらとした不安が、あかるくおだやかな希望になってゆく。



在原業平の歌　60×170 cm　風呂先屏風
名にしおはばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと（伊勢物語）

八重柏冬雷　1954　北海道河西郡芽室町東 6 条 7-1-83　082-0016　奎星会、毎日書道会
師＝長沼透石　090-8630-5255、torai.ky@gmail.com、http://torai-y.com

2009　奎星 50 人の書　上野の森美術館・東京
2013　第 35 回「日本美術の輸出」展・ニューヨーク
2017　北海道立帯広美術館に「花鳥風月～寂韻の響き～」収蔵
2019　現代和みアートフェス 2　暮らしの RE-USE　奈良町にぎわいの家・奈良
2021　HOTEL NUPKA Hanare Art Scene #1 八重柏冬雷展　帯広
　　上川大雪酒造 “碧雲蔵” 感謝祭「書家・八重柏冬雷展」 国立帯広畜産大学内
　　ニュージーランドワインラベル書「睦」揮毫
2022　KAMIKAWA HOTEL　ホール大壁書「上川」揮毫　上川町
2023　北の聲アート賞　書の美賞　受賞
2024　第 14 回八重柏冬雷獨り展　廊－KOHBUNDO・帯広

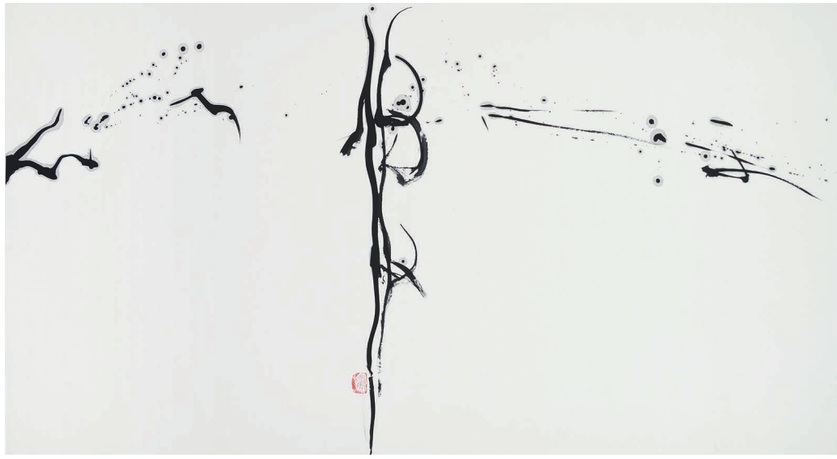
八木梢葉　1938　神奈川県厚木市栄町 1-5-5　243-0017
毎日書道会、奎星会、照心書道会　師＝渋谷竹径　046-221-1164（兼ファクシミリ）

神奈川県生まれ
1961　東京女子大学文学部卒業
1996　東京女子大学文学部書道講師となる
2008　同講師退職する

vertical　79×54.5 cm　墨、メディウム、画用紙
「象（カタチ）の無い線」という作品制作において、長い時間線を引いていた。
そんな中、師にいちばん初めに教えをいただいた線、その時の光景が鮮やかに蘇った。

山田しおり　埼玉　師＝外林道子　info@shiori-y.net

2015　第64回奎星展、以降毎年展示
2018　Le Salon in Paris
2019　Galarie Linda Farrell in Paris
2020、2021　NAU21世紀美術連立展
2021　Art point bis in Ginza
2021、2022　LE SALON D'AUTOMNE in Paris
2023　Galarie Linda Farrell in Paris



冬の星座　90×240 cm　墨、ネオカラー、画仙紙　たのしい作品づくりでした

山田翠香　1947　広島　毎日書道展審査会員、奎星会同人、一華会　師＝大楽華雪
090-2095-2408

TRILOGY－過去・現在・未来－　90×90 cm ×3
台湾紙、墨、ネオカラー、木工用ボンド
心を動かすイデオロギーは多種多様な交錯する想いと葛藤している。
柔軟な発想力と美的感覚を養い作品に取り組みたい。

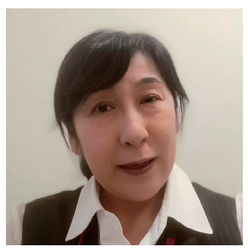
横山千恵美　1959　福井　奎星会　師＝吉川壽一　090-9767-7980

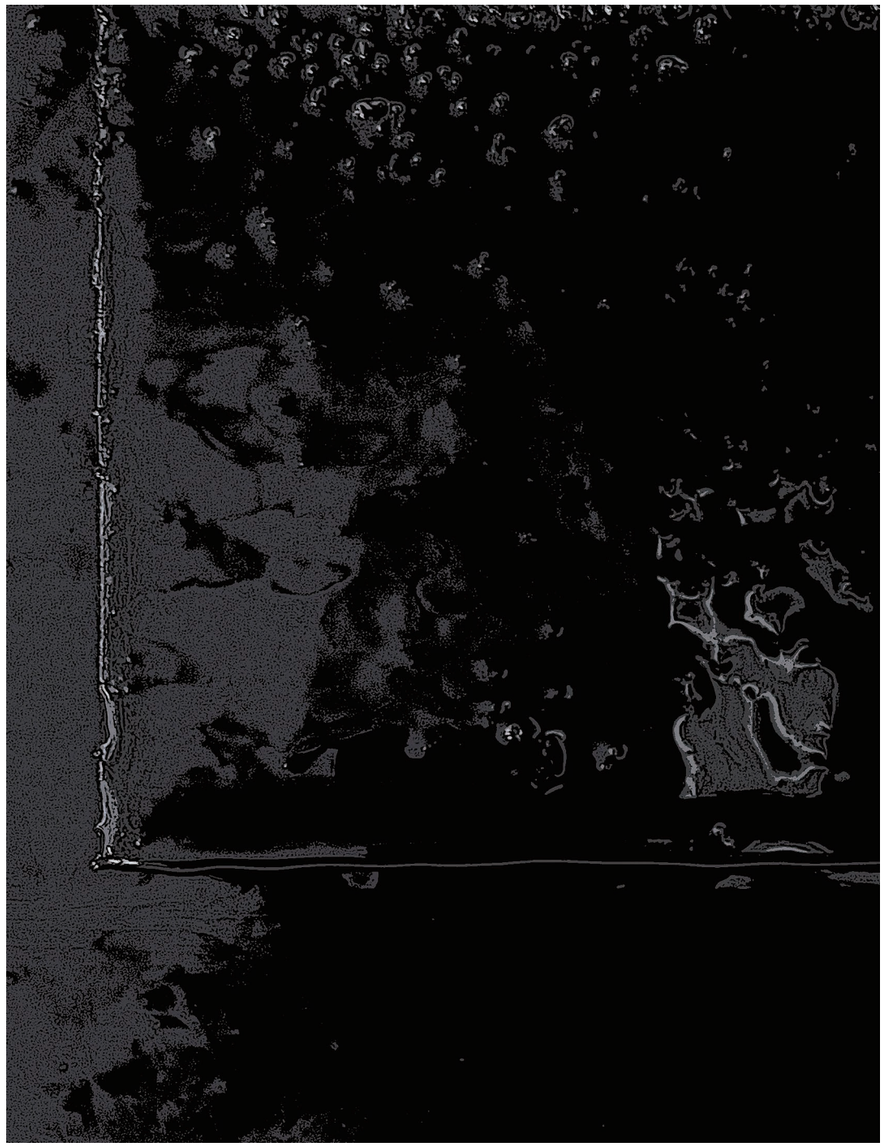
1987　第 36 回・43 回（1994）奎星展 特選、44 回（1995）奎星賞
1991　第 41 回福井県書道展　福井新聞社賞
1993　第 45 回毎日書道展　秀作賞、49 回（1994）・52 回（2000）毎日賞
1993　玄美翔展　准賞、玄美鑑展（1995）玄美賞
1999　第 48 回奎星展　天野琴記念賞
2001　毎日書道会会員昇格、毎日書道会会員昇格記念展出品　東京アートサロン毎日
2010　新年 & V ターン書展　福井新聞社プレス 21・福井
2015　第 67 回毎日書道展北陸展　席上揮毫
2017　第 2 回福井県書作家協会会員展　福井新聞社賞
2023　書勢会展（1990 から毎回出品）　福井県立美術館

時を重ねて　120×120 cm　画仙紙、グラシン紙、墨、アクリル絵の具
とどまることなく移り流れていく‥‥
時を積重ね「これまで」そして「これから」視点を変えて明日に続く

和田敬子　1967　群馬県藤岡市藤岡 804-1 カルムドミール C101　375-0024
高真会、毎日書道展会員、書道芸術院審査会員候補、群馬県書道展委員　師＝真下京子
kei.w@cure.ocn.ne.jp

2014　高真会展 －ころがる金文－　YOUHALL
2015　現代の書と花「羊太夫伝説」 ライフアップスクエアアイズ
2016　現代の書と花「みザル　きかザル　いわザル」 ライフアップスクエアアイズ
2017　現代の書と花「火の鳥」 ライフアップスクエアアイズ
2018　現代の書と花「ここほれワンワン－アートの鉱脈を探る－」 同上
2019　現代の書と花「Run Run Run 猪突猛進」 ライフアップスクエアアイズ
2024　多胡碑・第 21 回群馬書作家展　多胡碑記念館





□　120×180 cm 以内（部分）　未定
□の中はかくすものまもるもの　それとも何ものでもないの

和田好恵　島根